



# 感染症に気をつけよう!

2015年【5月号】



## 横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況	説明
海外での感染症	 散発  横ばい	<b>説明</b> 【 】は解説付き既刊号 ← クリック 細菌性赤痢やデング熱など、海外での感染例がみられます。 渡航先の流行情報に注意し、旅行の前後には体調をチェック しましょう。ワクチンで予防できる病気もあります。【8月号】

## 今、気をつけたい感染症 麻しん(はしか)

- 世界保健機関(WHO)は3月下旬、日本が麻しんの排除を達成したと認めました。しかしこれは、いわゆる国内に土着していた麻しんウイルスによる感染が無かった(3年間)、という意味で、日本から麻しんの患者が出なくなった訳ではありません。
- 麻しんは海外では流行している地域も多く、渡航中に感染する危険性があります。市内でも昨年には11件報告されていて、全てがフィリピンやベトナム等の海外で流行している種類のウイルスによるものでした。
- 海外で感染した人から、国内で別の人につつたケースもありました。また、患者の多くは、ワクチンを受けたことが確認できませんでした。



- 感染力がとても強い上、重い合併症を起こして、命に関わる場合もある麻しんですが、2回の予防接種で防ぐことが可能です。
- ワクチンを受けた人は自分だけでなく、家族や学校等、周囲の人も麻しんから守ることができます。



- 気づかぬうちに身近なところへ、海外から麻しんウイルスが持ち込まれているかもしれません。
- 定期接種の対象者はもちろん、その他の人も、医師に相談して、麻しん風しん混合(MR)ワクチンを2回受けましょう。

